

教育実践報告

# 金融スペシャリストプログラムにおける銀行論のオンライン授業

飯塚 徹

An Online Course on Banking Theory in the Financial Specialist Program

IIZUKA Toru

## 要 旨

松本大学松商短期大学部では、金融スペシャリストプログラムとして、入学時から金融機関に就職して働きたい学生、そこまで明確な意思はないが、金融機関に関心を抱いている学生に向けた授業を開講している。本プログラムに基づく授業は、金融に関する理論・知識および実務がバランス良く学習でき、資格取得にも対応するものである。本プログラムの成果として、金融機関に就職する学生が増加している。

本プログラムの主要科目である「銀行論」は、銀行を中心に金融機関の役割・業務などを、金融に関するトピックスとともに実務も踏まえ学習する授業で、開講時期が学生の金融機関への就職活動期と重なり、重要である。2020年度前期は、新型コロナウイルスの蔓延による感染予防対策のため、本学全体の授業がオンライン授業となった。授業はオンライン用に工夫し、それも含め、アンケート調査を実施したため、結果を考察したい。

## キーワード

金融 銀行 就職活動 キャリア教育 金融教育

## 目 次

- I. はじめに
  - II. 金融スペシャリストプログラムの概要
  - III. 金融機関への就職実績
  - IV. 金融機関内定者アンケートの結果と考察
  - V. 銀行論の概要
  - VI. 銀行論アンケートの結果と考察
  - VII. むすびにかえて
- 注  
文献

## I. はじめに

松本大学松商短期大学部(以後、本学)では、実務対応型教育である「金融スペシャリストプログラム」と呼ばれる科目群を開講している。これらの科目を受講することで、金融に関する基礎知識、金融機関の役割・業務などについて、理論・知識および実務をバランスよく学ぶことができる。さらに、金融に関する、国家資格であるファイナンシャルプランニング(以下、FPとする)技能検定および日本証券協会の証券外務員の資格取得にも対応している。

本プログラムは、入学時から金融機関への就職を考えている学生、そこまで明確な意思はないが、1年生前期の「金融の基礎」(選択必修科目<sup>1)</sup>)を受講し、金融や金融機関に関心を抱いた学生が受講している。

本プログラムの成果として、近年、金融機関へ就職する学生が増加傾向にある。そして、金融機関に内定した学生に対して行ったアンケート調査結果(2019年度)では、本プログラムに対する満足度が高かった。

なお、本プログラムの科目は、金融機関に就職しなくても、会社の事務職(経理・財務)で働く場合、さらに広く社会生活においても役立つ理論・知識である。

本プログラムは、藤波大三郎元教授(現・本学非常勤講師)が創設したもので、現在も筆者と授業を行っている。なお、私達は元銀行員である。

本プログラムの主要科目である「銀行論」は、銀行を中心に金融機関の役割・業務などを、トピックスとともに実務も含め学習する授業で、開講時期が学生の金融機関への就職活動期と重なり、金融機関からの内定獲得に関して重要である。そのため、授業の内容を概説する。

本年度前期の授業は、新型コロナウイルスの蔓延による感染予防対策のため、オンライン授業となった。教員および学生ともに初めての経験であり、筆者もオンライン授業のために創意工夫を重ねた。授業全般のアンケート調査(2020年度)を実施したため、結果を考察したい。

## II. 金融スペシャリストプログラムの概要

金融スペシャリストプログラムは、1年生科目である、「金融の基礎」「FP技能検定資格試験対策講座」「金融論」、2年生科目である「銀行論」「証券外務員資格試験対策講座」から構成される(表1)。なお、松本大学は2学期制であるが、本学は4学期制となっている。これについては、統一すべきと考える。

「金融の基礎」は、選択必修科目であり、多くの学生が受講するため、学科ごとに開講される。いわば、本プログラムの序章である。現在、金融機関の個人部門では実務知識とコミュニケーション力に基づいたコンサルティング業務ができる職員が求められており、具体的には国家資格であるFP技能士の資格を持つ職員の増強が課題となっている。そのため、1年生の1・2学期の「金融の基礎」において、このFPの基礎知識に取組み、関心を抱いた学生は3学期の「FP資格試験対策講座」を受講し、1年生のうちFP技能検定3級の合格を目指している。この理由として、ただ個人金融を学ぶより、検定試験の範囲を限定した方が学習の目標を立てやすく、また、FPの知識は、将来、金融機関に就職しない人にも必ず役に立つからである。

「金融論」は、お金の流れに関わる様々な経済現象(「金融」)を学習する授業である。ほとんどの経済活動がお金の流れと不可分であり、学生にとって身近な問題を扱う授業といえる。具体的には、金融政策と金融システムの分野における金融取引の基本概念をわかりやすく、理論と実務のバランスに配慮して解説している。

「銀行論」は、詳細については後述するが、銀行を法的・経済的観点から、基本的な部分である、固

表1 金融スペシャリストプログラム講義内容

1年生	1学期	金融の基礎(商学科)
	2学期	金融の基礎(経営情報学科)
	3学期	金融論・FP資格試験対策講座
2年生	1学期	銀行論
	3学期	証券外務員資格試験対策講座

(出所) 松本大学松商短期大学部2020年度講義時間割表に基づき筆者作成。

有業務(「預金の受入」「資金の貸付」「為替取引」)、銀行の種類や役割、置かれている経営環境などについて、わかりやすく解説している。なお、金融論と銀行論は密接に関連しており、銀行論を学ぶことは、金融論の授業の理解にも役立つ。相互で理解を深めることができる。そして、銀行論の開講時期は、学生の金融機関に向けた就職活動の時期と重なり、授業内容をもとに金融や銀行に関心を抱き、金融機関を志望する学生も多い。また、金融機関への就職活動を進めている学生から、様々な相談を受ける。

証券外務員資格取得対策講座は、金融機関から内定を得た学生を対象に、金融機関で働くうえで求められる「証券外務員」の資格取得に向けた授業である。証券外務員は、金融機関において証券や株式、信用取引などの説明や勧誘活動に携わるうえで必須となる資格である。資格取得者は、日本証券業協会から金融取引業務の代理を許可される。なお、外務員には一種と二種があり、一種外務員資格を取得すると「デリバティブ取引」「信用取引」を含むすべての金融商品の取り扱いができる。昨年度から、一種外務員資格取得を目指した授業に転換し、8名が合格した<sup>2)</sup>。2019年度の合格率(日本証券業協会公表)は67.6%であった。なお、受験者の多くは金融機関に勤務している者である。

以上、金融スペシャリストプログラムの概要を述べたが、学生が学習するうえで基本と応用、理論と実務のバランスが勘案されたもので、本学の特色である資格取得にも対応している。そして、本プログラムの成果として、近年、金融機関への就職者が増加傾向にある(図1)。なお、近年は、長野県信用組合および長野県労働金庫は総合職で、その他は一般職(事務職)での採用となっている。

### Ⅲ. 金融機関への就職実績(図1)

金融機関への就職者は、ここ8年間において、増加傾向にある(図1)。もちろん、この数字は景気の影響を受けるものであるが、金融機関の新卒採用は比較的影響を受けにくいとされる。近年において大量に採用した総合職行員が定年退職となり、また女子一般職(事務職)は結婚・出産で退職する行員が依然と多く、一定数の新卒採用を行うためであ

る。リーマンショック後においても、内定者は、例年比で減少したものの、他業種(製造業等)ほど減少はなかった。

一方、近年、地域金融機関(地方銀行、信用金庫、信用組合等)は、人口減少や長引く低金利政策などにより厳しい経営環境に陥り、IT・AI化と併せて人員の削減を進め、新卒採用の人数も漸次減らしている。

そうしたなか、ここ3年間で、複合サービスを含めた広義の金融機関への就職者は、2018年卒業者：27名、2019年卒業者：31名、2020年卒業者：41名と、増加している(図1)。この要因として、キャリアセンターの尽力も大きい。特に、銀行を退職した職員が顧問として在籍し、金融機関を訪問し、学生を親身に指導していたことは本学独自の取り組みであった。

## Ⅳ. 金融機関内定者アンケートの結果と考察

2020年3月末に卒業した、金融機関内定者(33名)にアンケート調査を実施した。その結果をみてみたい。

### 1. 金融機関を選択した理由(図2)

金融機関を就職先に選択した、最も多い理由として、「安定している」ことがあげられた(20名)。近年、全国的に金融機関の破綻は無く、長野県内の金融機関は全体的に健全性が高いことがあると思われる。学生の親も同様なイメージを持ち、就職先に勧める場合が多い。

続いて、「地域貢献したい」ことがあげられた(15名)。金融機関の重要な役割・使命は、地域経済を支援・発展させることであり、地域住民・企業のニーズに応えることで、地域貢献が実現できる。本学では地域貢献のできる人材育成を目指しており、それに沿うものである。

また、金融機関は、基本的に土日と祝日は休日となり、連続休暇(5日間)も取得でき、おそらく最も休日の多い職場である。残業が比較的少ないこともあり、魅力と感じている。金融機関で勤務することは、お金に関する業務を行い、機密情報を保持することなどから社会的信用があると思われる。そして、金融機関の業務については、アルバイトで体

験できず、学生のうちは金融機関へ行く機会もないため、イメージができなかったようである。

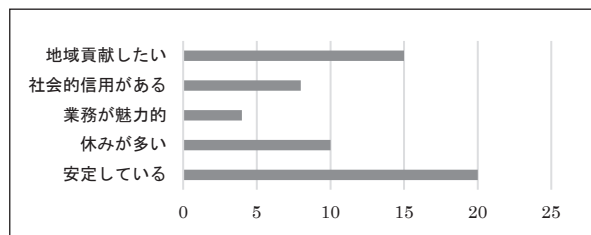


図2. 金融機関を選択した理由(複数回答)

## 2. 金融機関を志望した時期(図3)

金融機関を志望した時期については、意外であっ

たが、「就職活動で説明会に参加して」という回答が最も多かった(15名:45%)。これは、就職活動を進め、金融機関以外の業種の説明会にも参加し、様々な観点・条件(年収・休暇・福利厚生等)から比較検討したうえで金融機関に就職したいと考えたと思われる。「金融機関に就職したい」という意思から金融スペシャリストプログラムの授業を選択したのではなく、「授業内容が面白そうであった」、「今後の役に立つと思った」などから選択したと思われる。結果的に、本プログラム科目を受講したことが内定獲得に結び付いている。

「本プログラムの授業を受けて」、金融機関で働くことに魅力を感じ、金融機関を志望した学生、およ

区分	金融機関名	11-18CM合計	11CM	12CM	13CM	14CM	15CM	16CM	17CM	18CM
		13-20卒合計	2013卒	2014卒	2015卒	2016卒	2017卒	2018卒	2019卒	2020卒
銀行	株式会社 みずほ銀行	6	0	0	3	1	2	0	0	0
	株式会社 三井住友銀行	2	1	1	0	0	0	0	0	0
	株式会社 八十二銀行	7	0	0	2	1	0	1	2	1
	株式会社 長野銀行	13	0	0	2	3	2	5	1	0
	株式会社 北越銀行	1	0	0	0	0	1	0	0	0
信用組合	長野県 信用組合	9	0	1	1	0	0	1	3	3
	山梨県民 信用組合	2	0	0	1	0	0	0	0	1
信用金庫	アルプス中央 信用金庫	12	0	0	1	0	3	0	3	5
	長野 信用金庫	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	松本 信用金庫	7	0	0	0	1	2	0	1	3
	上田 信用金庫	7	1	1	0	0	1	1	1	2
	諏訪 信用金庫	8	1	0	0	0	2	1	3	1
	飯田 信用金庫	5	1	0	0	1	1	0	0	2
	新井 信用金庫	1	0	0	0	0	0	0	1	0
ひまわり 信用金庫	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
労働金庫	長野県 労働金庫	4	1	0	0	0	0	1	0	2
その他金融	株式会社 商工組合中央金庫	2	0	1	1	0	0	0	0	0
	長野カード 株式会社	3	0	0	0	1	2	0	0	0
証券	八十二証券 株式会社	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	丸三証券 株式会社	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	岩井コスモ証券 株式会社	1	0	0	0	0	0	0	1	0
保険	あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社	5	0	0	0	1	1	2	0	1
	損害保険ジャパン日本興亜 株式会社	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	朝日生命保険 相互会社	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	富国生命保険 相互会社	5	1	0	0	1	0	0	1	2
複合サービス	農業協同組合 等	93	8	10	8	17	12	12	12	14
	日本郵便 株式会社	10	1	0	2	2	1	1	1	2
合計		209	15	14	21	29	31	27	31	41

図1. 金融機関への就職者の推移

(出所)松本大学キャリアセンター統計資料を基に筆者作成

(注)数値は就職者であり、内定者は実数よりも多い(内定辞退が理由)。

び「高校生の時から」金融機関に就職することを考えていた学生は合計で18名(55%)いた。後者は、本学入学への志望動機となっている。

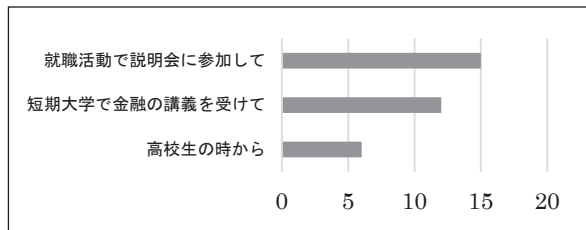


図3. 金融機関を志望した時期

### 3. 金融スペシャリストプログラムの評価(図4)

金融機関から内定を得た学生の全員が、本プログラムが「役に立った」と回答した。「とても役に立った」が22名(67%)、「まあまあ役に立った」が11名(33%)であった。

本プログラムの科目を受講し、金融機関から内定を得た学生の満足度は高かったことがわかる。

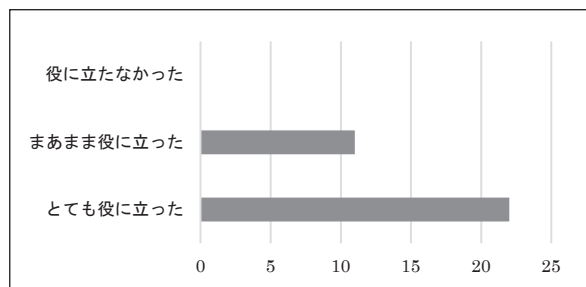


図4. 金融スペシャリストプログラムの評価

## V. 銀行論の概要

### 1. 授業の内容

「銀行論」は、教科書「イラスト図解銀行のしくみ」(戸谷圭子著)、参考書「銀行論」(松本大学松商短期大学部テキスト:飯塚徹著)を使い授業を行った。教科書のテーマに沿った内容で授業を進め、基本的なポイントを説明し、詳細については参考書で学習・復習してもらう内容とした。

教科書のテーマに沿って、(1)銀行とは何か、(2)銀行の収益のしくみ、(3)さまざまな銀行のチャンネル、(4)銀行の支店のしくみ、(5)銀行員のキャリア、(6)

融資のしくみ、についてポイントをわかりやすく説明し、具体的な実務の話を随所に交えた。

(1)「銀行とは何か」では、銀行の成り立ち、銀行の種類と役割(銀行と信用金庫との違い、日本銀行の役割)、個人・企業と銀行との関わり、金融庁・日本銀行と銀行の関係、キャッシュレス社会、などについて解説した。

(2)「銀行の収益のしくみ」では、銀行とお金の流れ、預金と貸金からの収益(利鞘が銀行の最も大きな収益源である)、国内振込手数料収益、外国為替収益、投資信託と保険の手数料収益、クレジットカードからの収益などについて解説した。

(3)「さまざまな銀行のチャンネル」では、さまざまな支店のタイプ(機能特化型の支店、コンビニ銀行など)、支店窓口と渉外系の業務内容、ATMのしくみ、コンビニATMのしくみ、なぜ銀行は3時に閉まるのか?(銀行法で定められているため)などについて解説した。

(4)「銀行の支店のしくみ」では、典型的な支店のづくり(レイアウト)、預金窓口のしくみ(正社員でないパート職員であることが多く、挨拶は防犯のため)、融資窓口のしくみ、資産運用窓口のしくみ、支店の仕事はマニュアルで定められている(サービスマーケティングが最も遅れている業界)、IT化の進む支店(業務内容の変化)、銀行強盗が来た時の対応、などについて解説した。

(5)「銀行員のキャリア」では、求められる人材(時代による変化)、新卒採用(今後、総合職採用が増加していく傾向)、銀行員のキャリアプラン、銀行員の給料、女子行員のキャリアパスの変化、などについて解説した。

(6)「融資のしくみ」では、住宅ローンのしくみ、カードローンのしくみ、消費者ローンのしくみ、融資のプロセス(審査のポイント)、融資の種類、法人への経営支援(融資以外のM&Aやビジネスマッチング)、などについて解説した。

なお、全体を通して、お金と人生を真摯に考える金融教育<sup>3)</sup>も行った。

### 2. オンライン授業のための工夫

オンライン授業のために、主に下記の創意工夫を行った。

(1) わかりやすく興味がわく動画の活用、(2) Glexa<sup>4)</sup>による毎回の課題提出(授業に関する質問・就職活動に関する相談等も含む)、(3)パワーポイント資料の改良(メリハリをつける)、(4)パワーポイントのスライドの切り替えのタイミング調整(内容をノートに書き写す時間の確保)。

(1) ほぼ毎回、動画の視聴を取り入れた。授業中に視聴して解説すること、課題として動画を視聴した感想を述べることを課した。例えば、「キャッシュレスはなぜ日本では普及しないか」「良い借金と悪い借金」「ローンが返せなくなったらどうなるか」「老後に必要とされるお金はどのくらいか」など、授業内容に沿った学生にとって興味深い動画を視聴させることで理解を深めた。対面授業で一堂に動画を視聴するよりも、自分のパソコンで見やすく、Glexaに動画を添付したことで繰り返し視聴することも可能であり、効果的であった。

(2) Glexaを活用し、毎回、授業終了後に課題を提出するシステムとした。課題の評価は期末試験の配点20点とした(100点満点)。課題の内容は、授業で説明したポイントが理解できているか、動画で伝えたい真意が伝わっているか確認するものである。評価・コメントを返すことで、インタラクティブな授業が展開でき理解が深まる。また、質問や就職活動に関する相談にも応じた。質問と相談は、対面授業のほうがタイムリーで効果的であると感じた。そうしたことから、極力、早い返答を心掛けた。

(3) パワーポイント資料の改良は、学生からの要望から生まれたシンプルなくみである。ノートに書き写す必要のあるスライド(重要なポイント)に赤の二重丸をつけ、書き写す必要のないスライドと識別するものである。対面授業では口頭で説明しており、これまでこうした要望は出なかったが、オンライン授業では分かりづらかったようである。なお、本来ならば、学生が自分で判断すべきとも考えるが、これについては課題である。

(4) パワーポイントのスライド切り替えのペース配分については、対面授業では学生の状況をみて判断しているが、オンライン授業ではそれができない。最初は、適度だと思いう時間でスライド

を切り替えていたが、多数の学生から「早い、書き写せない」という意見が寄せられた。これに対し、適度だと思いう時間に、「残り1分で切り替えます」と説明し、対応した。これ以降、要望・意見は出ずに、これにより、解消できたと考える。なお、学生が書き写す時間を短縮する努力も必要であろう。

## VI. 銀行論アンケートの結果と考察

2020年1学期の「銀行論」の授業を受講した2年生93名にアンケート調査を実施した。その結果をみてみたい。

銀行論の内容、オンライン授業について広く設問を作成したため、分けてみてみたい。

### 1. 銀行論の内容について(図5-図8)

(1) 授業を理解することができたか

「とても理解できた」が52名、「まあまあ理解できた」が39名であった。理解できた学生が91名であり(98%)、学生のレベルに合ったわかりやすい授業であったことがわかる。多くの学生が1年生の3学期に金融論の授業を受講しており、金融に関する基礎知識を習得していたことが大きな要因と思われる。

(2) 金融と銀行に関する知識が習得できたか

「とても習得できた」が49名、「まあまあ習得できた」が44名であった。学生全員が、金融と銀行に関する知識が習得できたことがわかる。

(3) 銀行実務の話は参考になったか

「とても参考になった」が81名と多数を占めた(87%)。金融機関への就職を考えていた学生には働くうえで興味深く参考になったと考えられる。理論や知識も重要であるが、具体的な実務の話を聴くことで、理解が深まる。

(4) 受講して良かったか

「とても良かった」が83名、「まあまあ良かった」が9名、「どちらともいえない」が1名であった。1名以外が授業を受講して良かったと評価している。こうした授業を来年度以降も継続したい。

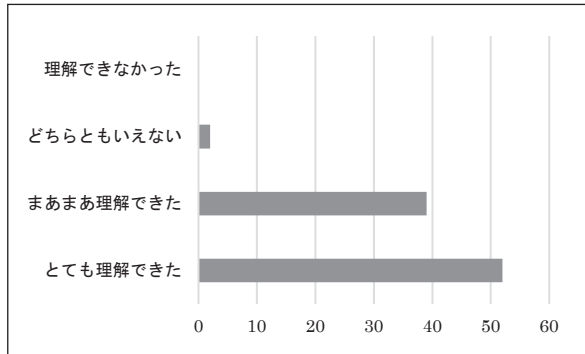


図5. 授業を理解することができたか

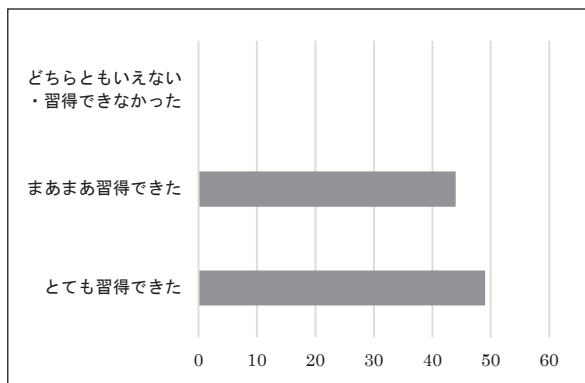


図6. 金融と銀行に関する知識が習得できたか

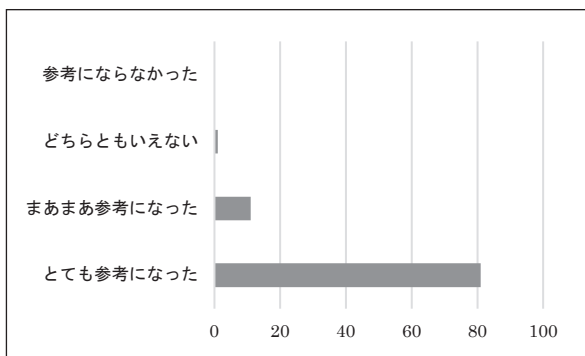


図7. 銀行実務の話は参考になったか

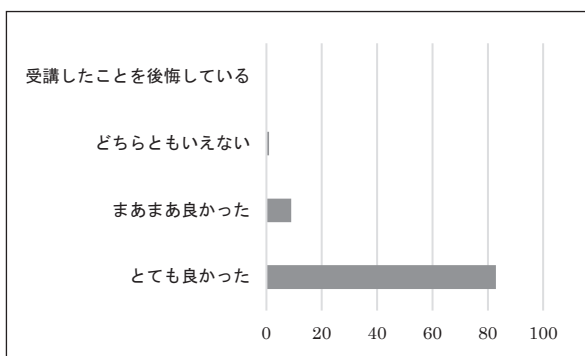


図8. 受講して良かったか

## 2. オンライン授業について(図9-図12)

(1) オンライン授業であったが、対面授業とどちらが良かったか

「オンライン授業のほうが良い」が32名(34%)と、「対面講義のほうが良い」の17名(18%)を大きく上回った。しかし、「どちらともいえない」が44名(48%)と最も多かった。それぞれを選択した理由は、(2) (3) のとおりであった。

(2) オンライン授業を選択した理由

「マイペースで学習でき、集中できる」が20名と最も多かった。「通学時間が不要(物理的理由)」が多数を占めると思われたが、13名であった。比較的遠距離から通学している学生が回答したと思われる。また、学生間および教職員とのコミュニケーションが苦手な学生が選択したと思われる。

(3) 対面授業を選択した理由

「集中できない・メリハリがない」が14名と最も多かった。オンライン授業の選択理由で最も多数を占めた「マイペースで集中できる」と評価が相反する。「通信環境が不安定(物理的理由)」が9名であり、大きな要因となったことがわかる。家庭の事情もあり、環境を整備することは限界がある。「教員に直接質問ができない」が5名であり、オンラインによる質問回答を実施したものの、講義終了後に、対面で質問に回答してもらうことに優位性があった。

(4) 授業はオンライン用に工夫されていたか

とても工夫されていたが82名、と大多数を占めた(88%)。学生全員が、工夫されていたと回答した。工夫内容は、前述のとおりであり、試行錯誤を繰り返した結果である。

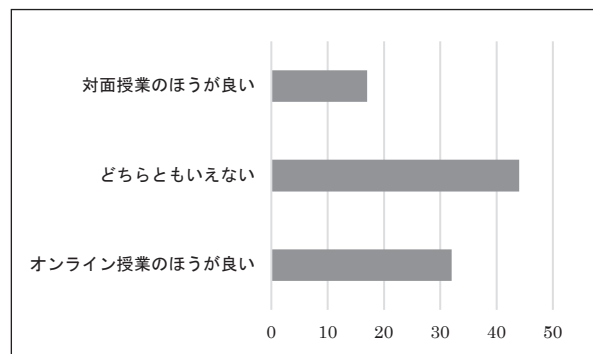


図9. オンライン授業と対面授業、どちらが良かったか

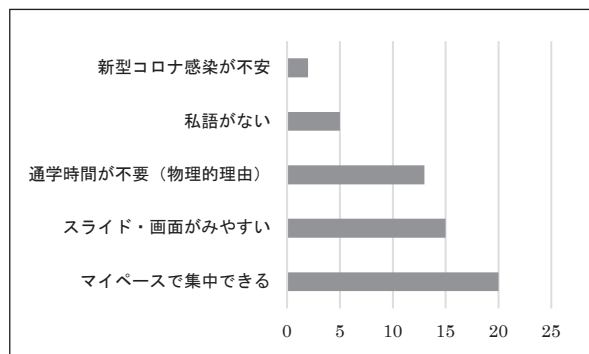


図10. オンライン授業を選択した理由(複数回答)

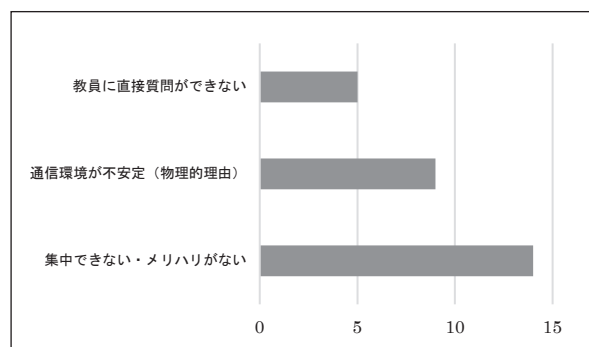


図11. 対面授業を選択した理由(複数回答)

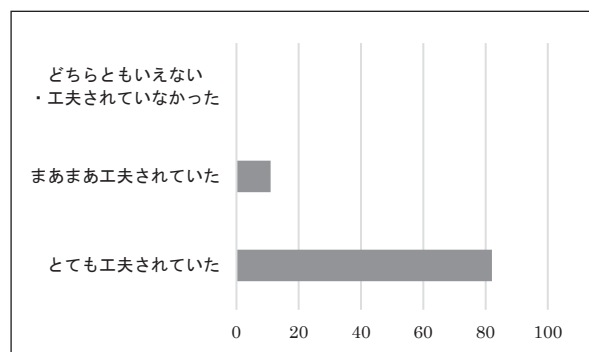


図12. オンライン用に工夫されていたか

替窓口係ではなく、資産運用窓口係や渉外・融資係の業務を行っている。柔軟な発想に基づく顧客本位の提案力や解決力が求められる。

銀行論についても概要を述べ、オンライン講義を含めてアンケート調査結果を整理したうえで考察した。現状において、学生からの講義に対する評価は概ね高く、今後もわかりやすさと質を勘案し、銀行のトレンドに対応した授業を実践していきたい。

本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン授業となり、創意工夫を行ったが、それも機能し、「対面授業よりもオンライン授業で良かった」と回答する学生のほうが多かった。筆者も、学生と同様、最初はオンライン授業自体に慣れず大変であったが、「銀行論」に限っていえば、慣れて創意工夫することで、教員も学生も両者が快適な授業となった。新型コロナ禍が収まり、仮にどちらかの授業形式を選択できるのであれば、オンライン授業を選択したい。とても貴重な経験であった。

## Ⅶ. むすびにかえて

金融スペシャリストプログラムの概要と成果を述べ、学生のアンケート調査結果を整理したうえで考察した。

本プログラムが現在の科目内容に定着したのは、ここ数年であり、金融機関内定者の増加に有意である。本プログラムは、金融機関への就職者を輩出することが最大の目的であり、金融機関の求める人材の変化に的確に対応することが求められる。たとえば、現在、多くの金融機関では正社員は、預金・為



## 文献

- 戸谷圭子, 『イラスト図解 銀行のしくみ』日本実業出版社, (2019).
- 飯塚徹, 『銀行論』松本大学松商短期大学, (2020).
- 藤波大三郎, 『入門テキスト金融論』三恵社, (2018).
- 藤波大三郎, 『はじめて学ぶ銀行論』創成社, (2012).
- 藤波大三郎, 『コンパクト銀行論(第2版)』三恵社, (2017).
- 藤波大三郎, 『たのしく学べるファイナンシャルプランニング』創成社, (2017).

## 注

- 1) 選択必修科目として、経済・経営科目を8単位以上修得することが、卒業要件となる。
- 2) 2019年度以前は、二種外務員資格を目指す授業内容であった。多くの金融機関が内定者に対し、一種外務員資格の取得を求めるようになったため、変更した。
- 3) 金融教育とは、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。(金融広報中央委員会)
- 4) Glexaとは学習に必要な「読む・書く・聞く・話す」の4技能を網羅したeラーニング機能が特徴的で、受講者の成長へとつなげるポートフォリオや協調性を高めるグループやコミュニケーション機能などを採用した、ラーニングマネジメントシステムである。